

No.213

令和3年7月20日  
鹿児島県立甲南高等学校  
鹿児島市上之園町23番地1  
TEL (099) 254-0175  
題字 永野 弘行

# 甲南だより

「はるかなる理想の嶺」を目指して

校長 池田 浩一



令和3年度がスタートして、早3か月あまり過ぎる。この四月から本校に赴任した自分は、コロナ禍に悩まされた過去と決別して新たな創造の日々が始まる。昨年出来なかったことを積み重ねながら進みたいという思いと共に、新年度を迎えた。コロナとの決別は道半ばだが、二年越しの甲鶴戦や県高校総体で見せてくれた甲南生の姿は、期待に違わぬものであった。昨年の五十回記念大会を見送った甲鶴戦では通算十勝七敗での勝利を取めたが、懸命に競技する姿や一丸となった応援はもちろんだ、運営全般にわた

## 令和3年度入学式 可能性に挑み、己に克つ！ ～第75期生321人～

穏やかな天候に恵まれた4月7日（水）、令和3年度入学式が厳かに挙行されました。昨年来の新型コロナウイルス感染防止対策として、式典には新入生及び保護者と教職員のみでの参列となりました。

最初に池田校長が壇上で見守る中、担任がクラスごとに一人ずつ呼名しました。そして、池田校長による入学許可の宣言の後、新入生代表の泊口結愛さんが甲南高校生としてそれぞれの目標達成に向け努力することを凛々しい表情で宣誓しました。

池田校長は式辞の中で、「挑む」「克つ」「結ぶ」をキーワードに「自分の可能性に真摯に向き合い挑み続け、自分に克つ事を忘れず、基本的なことを徹底して磨く営みに立ち向かってほしい。そして互いに支え合い繋がる中で、真の自己を高め、感謝の心を忘れず、過去と未来、鹿児島と世界を結ぶ意識を持ってもらいたい」と述べました。

今年の校歌紹介では音楽部の生徒6人が壇上に上がり、美しい歌声を披露しました。

入学式後、新入生達は各教室の場所を確認した後、より広い特別教室で初めてのLHRを受けました。どの生徒も、新しいクラスメイトと共にこれからの甲南ライフへの期待に胸一杯の表情でした。



宣誓を行う新入生代表の泊口さん

いることは承知の上だが、それぞれの次の場面で活かしてもらえれば良い。そういつたハレの場とは別に、日常の状況はどうか。毎朝、明るい挨拶を交わしてくれる生徒諸君の多さに感謝し、授業での集中はもろろんのこと、甲南タイムやSSHの時間等で発表する堂々とした姿に感心させられる。甲南高校生の能動的な姿は、伝統的に培われたものと、時代の

変化に怯まず対峙してきたことの両面から形成されているのだと思う。入学式の際に、正門からの光景に、学校の品格を感じると述べたが、最もその品格を形作っているのは、言うまでもなく、生徒一人一人の行動である。伝統と述べたが、「甲南らしさ」とは何なのだろう。去る三月、卒業を伝える地元紙の全県下の高校生の一言に、本校卒業生は「甲南日和」のことを書いていた。どんな状況であつても前向きにとらえる能動的なとらえ方の象徴でもあろうし、校訓の「剛明直」「気高く優しく健やかに」、甲南生の能動的なあるべき姿を指し示している。校訓と言え、先日の甲南塾で、講師の篠原誠先輩から、多くの学

校の校訓を紹介して、本校の校訓の素晴らしさを述べていただいた。自分なりに違う見方をしてみると、いろんな校訓は、動詞や形容詞の単語（漢語もあるが）がほとんどだということに気づく。主語は、〇〇高校生となるが、「何を」「どう」は、かなり広い範囲で述べられるのだろう。換言すれば、一通りでない「剛明直」が沢山あるということだ。皆さんの「剛」とは何がどんな様子であれば剛なのか、同様に「明」「直」に対しても、さらにはそうなるためにはどうすることが必要なのか、と広がっていく。校訓一つ一つもこのように、主体は生徒自身であり、能動的に動く姿勢が、甲南らしさ

に繋がるのではないかと。一方で「地球規模でものを考え行動するリーダーの育成」を教育目標に走り続けている本校だが、正に時代の変革の行き先にあるものにも、その目標は合致すると思う。入学式や始業式で話した「結ぶ」ということも、先の校訓同様に広がりがあり、今と未来を、自分と他人を、地域と世界を結ぶ活動であればと思う。本校校歌の歌詞に「はるかなる理想の嶺は高くとも」とあるが、高邁な理想を胸に、能動的に、良質な共同体としての働きを加速させながら進んでいく、新たなそんな令和3年に、共に努めていきたいと決意している。